

集う・楽しむ・学ぶ・寛ぐ

家族それぞれの LDK 時間

LDKは家族だんらんの場でありつつ、一人でのんびりしたり、お酒を楽しんだり、読書をしたりと、自分時間を楽しむ場。テレワークが普及しつつある現在は、仕事をする人もいるだろう。家族と一緒にときも一人だけの時間も宝物になるような、「集う・楽しむ・学ぶ・寛ぐ」ためのLDKのつくり方を見てみよう

構成・取材・文／松林ひろみ
撮影／山口明(CASE1, 2)、竹村麻紀子(CASE3)、橋本裕貴(CASE4, 5)、河原大輔(CASE6)
間取図／長岡伸行 デザイン／papas factory

字 ぶ

心地よさを満喫する
吹抜けダイニング

天井の形や素材などを変えて、LDKを緩やかに区切ったプラン。「ダイニングでは食事はもちろん、パソコンコーナーも近くにあるので、お互いに自分がしたいことをしながら、会話を楽しんで過ごせる、癒やしの空間です」

THINKING



お互いの好きなことを大切に、緩くつながる日常を謳歌

家

族

が

長

い

時

間

を

共

有

す

る

こ

と

を

踏

ま

え

る

こ

と

を

踏

ま

え

る

こ

と

を

踏

ま

族が長い時間を共有することを踏まえ、Eさん夫妻の家づくりのテーマは、快適に過ごせる空間をつくること、お互いの時間を尊重することだった。2階に設けたLDKは、約19畳の一体空間ながら、夫妻が思い思いの時間を存分に楽しんで過ごせるように、それぞれの場所を緩やかに分節。リビングは屋根形状に合わせて天井を低めに設定した。おこもり、空間、ダイニングは伸びやかな吹抜け空間、キッチンは構造上の柱を活かしてデザインし、別空間のように見せて。オープンな一体型ながらもスペースごとに雰囲気を変えているため、自分時間に集中しながら、「ミニニケーション」を図りやすい間取りだ。階段脇には、潤いと癒やしをもたらすインドアガーデンを設けた。

「単純に広いLDKは、私たちの暮らしでは上手に活用できないかな?と思い、変化をつけました」と話す夫妻。ちょっとした区切りでアクセントをつけ、自身が一番心地よく感じる理想の住まいを実現した。

高さや素材に変化をもたせた
“つかず離れず”的LDK

奈良県/E邸

CASE
01

寛ぐ

上質な素材と色が奏でる
ラフな表情が心地よい空間

ビンテージ感あふれるラスティックなグレー塗装の幅広フローリングに合わせて、リビングの天井には床材と同じ素材を用いた三角形状を採用し、落ち着いた雰囲気を演出

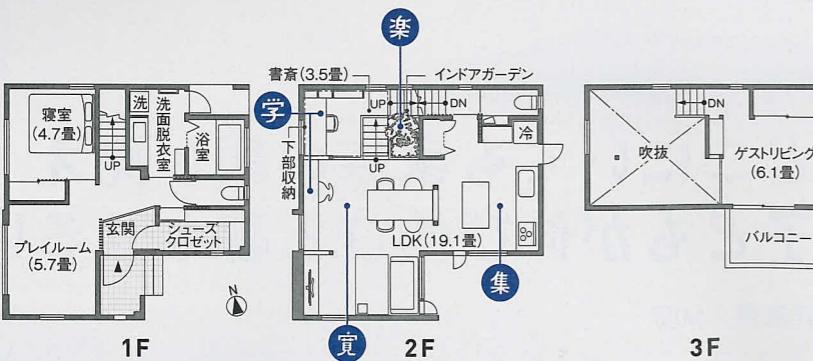
HEALING



楽しむ

気分が上がる階段横の インドアガーデン

階段の途中にパキラやオリーブなどさまざまな鉢植えを置くスペースを設置し、毎日の水やりで植物の成長を楽しんでいる。吹抜けを貫く壁には、天然石を薄く加工したシートストーンを張ってダイナミックな印象を演出



集う

みんなで調理がしたくなる 作業も会話も楽しいキッチン

夫妻でキッチンに立つほか、ゲストを招いてみんなで調理をしながら食事を楽しむことが多いため、作業台を兼ねるアイランドを造作。ダイニングより床を一段下げているため、柱越しにダイニングにいる人と視線が合う

学ぶ

集中したいときに使う 一段上がったオープン書斎

ダイニングフロアから1.4m上がった場所に書斎を配置。集中するため、家族と視線を合わせずとも互いの気配を感じられるよう、あえて個室にはせず、LDKとひと続きに。造作のオープン棚には、お気に入りの本をディスプレー

